

単元名

立場を明確にして話し合おう
「ミニディベート AI との暮らし」
第5学年

内容のまとめ

第5学年及び第6学年
〔知識及び技能〕(2) 情報の扱いに関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」

1 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。
- (2) 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	① すすんでテーマについて自分の立場を明確にし、学習課題にそって計画的に話し合い、自分の考えを広げようとしている。 言語活動例……A(2)ウ

3 指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1 本単元の目標をつかみ、学習活動の見通しをもつ ・テーマに対して自分の立場を明確にして話し合うことを確認する。 ・ミニディベートの役割や方法について知る。			① 発言
2 3	2 テーマを決めて、調べる。 ・話し合うテーマを決める。 ・利点や問題点について調べる。		① 発言	① 発言、ワークシート
4	3 話し合いの準備をする ・集めた情報をもとに、利点と問題点の両方の立場から、意見や予想される質問・反論とそれに対する答えを考える。	① ワークシート		

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

- ・ディベートの動画を視聴し、イメージをもつ
- ・単元の目的を明確にし、共有する。

B 子どもの「興味関心」や「問い」を大事にした授業

- ・ディベートのテーマは自分たちで選ばせることにより、「考えたい、調べたい」という動機付けをする。

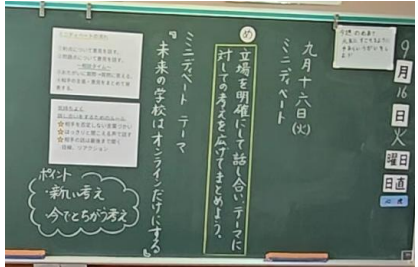
5 本 時	4	ミニディベートを行う ・ミニディベートを通して、自分が思ったり感じたりしたことをまとめる。	① 発言、ワークシート	① 発言、ワークシート
	6	学習の振り返りをする ・どんなことに気をつけて取り組んだか振り返る。(ミニディベートの録画を視聴) ・学んだことについて確認する。	① 振り返り	① 振り返り

4 本時案 (5/6)

(1) 本時の目標

立場を明確にして話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。

(2) 本時の展開

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導 入	<p>○ 前時までの学習内容を振り返る。 ・話し合いのテーマと立場(利点・問題点)と主張を確認する。</p> <p>○ 掲示物を用いて、ディベートの流れとルールを確認する。</p>	<p>◇(前時に引き続き) 立場別ワークシートの活用</p>  <p>◇ディベートの流れを確認する 掲示物の活用</p>
	<p>○ めあてを確認する。</p> <p>(め) 立場を明確にして話し合い、テーマに対しての考えを広げてまとめよう。</p>	
展 開	<p>○ ミニディベートを行う。</p> <p>ミニディベートの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テーマの利点について意見を話す ② 問題点について意見を話す ③ 互いに質問→応答 ④ 相手の主張・意見をまとめて発表する。 <p>※少人数のため、一つのテーマに対して2対2でディベートを行い、司会は教師が担う。</p>	<p>◇話し合いが円滑に進まない場合は、児童の役割を確認し、その役割を意識して発言するように促したり、ワークシートを見直すよう助言したりする。</p> <p>☆立場を明確にして話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (思考・判断・表現)</p> <p>☆すすんでテーマについて自分の立場を明確にし、学習課題にそって計画的に話し合い、自分の考えを広げようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

- ・気持ちよく話し合いをするためのルールを児童と確認する。
- ・考えを深め合うには何をポイントに話し合いを聞けばよいか考える。

A 子どもが「自分たちで学び取る」授業

- ・ディベートで意見を主張する際には、ICT を活用し、意見をスライドにして準備しておくなど提示の工夫を工夫する。

終末	<p>○ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニディベートを通して自分が思ったり感じたりしたことを交流する。（これまでの考えと変わったことや相手の意見から自分の考えが深まったことなど） 	
----	---	--

5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント

○ ミニディベートの目的を明確にし、話し合いのルールを自分たちで考える

児童がディベートを行うとトークバトルや、ただ単に自分の意見を言いつばなしの自己完結で終わってしまうことがある。

そうならないようにするため、学習の見通しをもつ段階で、「自分の考えをより深めるための話し合い」という、本單元におけるディベートの目的を明確にして児童に示す。

また、ディベートの仕方を学習した後に、気持ちよく話し合いを進めるためのルールを児童が考える学習活動を位置付ける。意見を話す時の言葉遣いや、相手の意見を聞くときの姿勢をポイントとしてルールを定めることで、話し合いに参加する際の責任感や協力意識を高めることができる。

○ ミニディベートのテーマは児童にとって身近なものから選ぶ

ミニディベートのテーマは、児童にとって身近なものを選ぶことによって、「意見を言ってみたい、話し合ってみたい。」という動機付けになり、主体的に学びに向かう態度を養うことができる。

ミニディベートを行うにあたり、自分の意見や考えは、1人1台端末を活用してスライドにまとめたり、画用紙に書いてまとめたりするなど、児童が自分で選択できるようにし、学びを児童に委ねる場面を位置付けることで、「個別最適な学び」の充実を図る。

○ しっかりと聞く力・話す力を育てる

本時で行うミニディベートでは、意見交換、質疑応答をした後に、相手方の主張をまとめて発表する場面を設定している。

そのため、聞く場面では、相手の主張をよく聞いてしっかりと理解する必要がある。

また、聞き手のまとめを聞くことで「自分たちの主張が相手にしっかりと伝わっているか」という確認ができ、伝わっていなかった場合は、どのように発表するとよかったか、言葉遣いに問題はなかったか、話し方が伝わりやすいものであったかなど、ミニディベートの目的や自分たちで決めた話し合いのルールに基づいて振り返り、必要に応じて発表の仕方や内容の改善につなげることができる。